

愛知県感染症情報

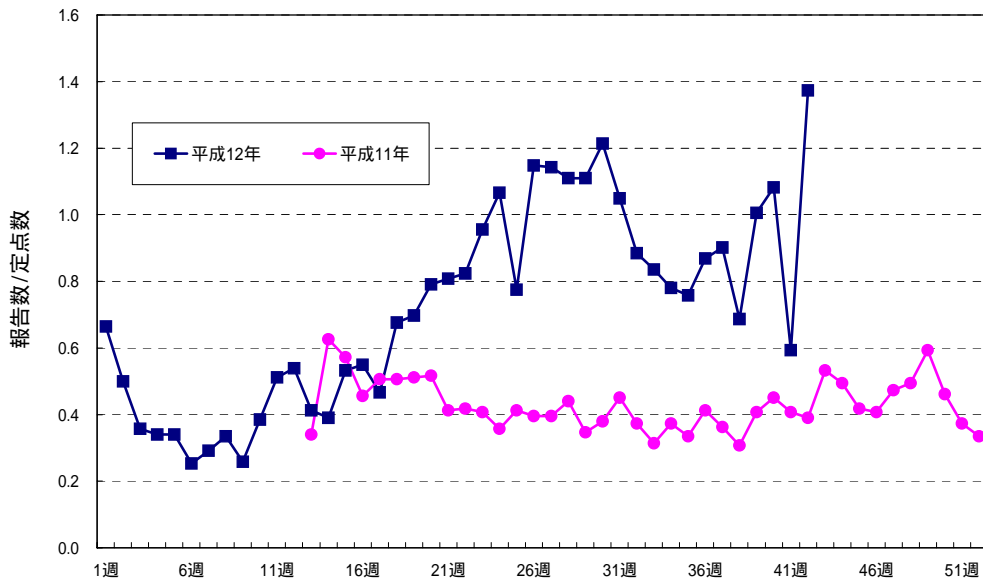
平成 12 年第 42 週 (10 月第 3 週)

(コメント)

流行性耳下腺炎が流行しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び水痘が散発しています。

水痘についての詳しい説明については、愛知県衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/suitou.html>) をご覧ください。



流行性耳下腺炎(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日~)から)

(先生方からのコメント)

● 尾張西部地区

・ ムンプス小流行

(一宮市 あさのこどもクリニック)

・ 病原性大腸菌陽性者 0-1 2名(3歳男、3歳女)、0-18 2歳女

カンピロバクター 2歳男

ロタウィルス腸炎 1歳男

インフルエンザA 2名(2歳男、3歳男)

(尾西市 城後小児科)

・ 発熱を伴う胃腸炎でできました。

(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

・ 水痘、流行性耳下腺炎の小流行が続いています。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ マイコプラズマ 2名(71歳男、53歳女)
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ これといった流行疾患はありませんでした。(突発疹、流行性耳下腺炎(家族内感染あり)、手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症等散発)
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
 - ・ 今週は3歳男児溶連菌感染症1名、突発性発疹3名、マイコプラズマ肺炎(入院)1名ありました。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ 手足口病の髄膜炎数名あり。
(小牧市 小牧市民病院)
- 西三河地区
 - ・ RSウイルス抗原陽性の乳児期気管支炎が増えてきました。
(東海市 東海市民病院)
 - ・ 4S(SSSS:ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群)1歳女
(岡崎市 医療法人深田小児科)
 - ・ マイコプラズマ(抗体>10,240)1歳男
病原性大腸菌0-1 1歳男
0歳女のリンゴ病(伝染性膿痂疹)は家族から感染
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 病原性大腸菌混合0-4と0-6、VT1・VT2(-) 6歳男
(岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
 - ・ 病原性大腸菌0-18 3歳男
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
 - ・ 引き続き流行性耳下腺炎流行
手足口病もやや増加
(碧南市 永井小児クリニック)
 - ・ 嘔吐が増えてきそうな気配です。
(西尾市 やすい小児科)
 - ・ 麻疹(予防接種済み)1歳男
流行性耳下腺炎(予防接種済み)9歳男
(西尾市 山岸クリニック)
- 東三河地区
 - ・ サルモネラ0-9 3歳女
病原性大腸菌0-18 3歳女
伝染性紅斑で成人が4日間入院

1歳以下の手足口病で40度以上の熱が1～2日続く児が時々居る、口腔粘膜疹も強い。

(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1～3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者1名

- ・ 西尾保健所から報告の42歳男。10/10発病、10/12初診、10/16診定。菌型は、フレキシネル 3a

腸管出血性大腸菌保有者1名

- ・ 江南保健所から報告の50歳女。10/12初診、10/16診定。菌型は、O-157 VT2(+)。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありません

40週(10月2日～10月8日)の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年に比べかなり多い。また、手足口病、咽頭結膜熱など夏季の感染症の定点当たり報告数も例年よりやや多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

日が短くなり、秋霖という言葉ぴったりの暗い雨の帰路の日とコスモスの揺れる小春日和の日々が訪れるようになりました。いつも貴重な情報を有難うございます。10月前半のまとめをお送りします。

1．名古屋市：手足口病が相変わらず散発中で一部地区では髄膜炎の合併例も目立っていますが峠はこえたようです。一方ムンプス髄膜炎の散発も続いています（第一日赤有吉先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生）。第一日赤有吉先生からは原因不明の急性脳症の入院の報告もいただきました。季節がら喘息発作や喘息性気管支炎がどこも目立っているようですが（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災・山田先生）、発熱や咳嗽の上気道感染症・感冒も各地区で散発、ウイルス性胃腸炎や感冒性嘔吐の目立つ地区もあります（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。第二日赤岩佐先生や三菱・岩間先生、労災・山田先生からは仮性クループ、肺炎・気管支炎が目立つとのお手紙で、サルモネラ腸炎（第一日赤有吉先生）、病原性大腸菌O1、O18、O166感染症（三菱・岩間先生）、川崎病（第一日赤有吉先生、中京柴田先生）、膿痂疹（労災・山田先生）、EBウイルス感染症（労災・山田先生）などのお手紙も目につきました。

2．尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病が散発中、江南市昭和病院西村先生からは手足口病と喘息性気管支炎目立つ、岩倉市永吉先生からは急性胃腸炎（2日位の発熱と嘔吐）の発生がはじまり、水痘とムンプスが続発中、常滑市民病院上田先生からは手足口病と伝染性膿痂疹、突発性発疹が散発中で手足口病で食事摂取困難から要入院例、腸炎ピブリオ食中毒の家族内発生例、ブ菌性皮膚熱傷様症候群の入院例あり、半田市民病院中島先生からは普通感冒とそれに伴う喘息、あるいは喘息性気管支炎の例が目立ち、麻疹が大流行ではないがコンスタントに1-2名認められるとのお手紙でした。

3．三河地区：トヨタ病院木戸先生からは咳、胃腸症状のある熱性疾患と一部地区で手足口病流行、手足口病髄膜炎1例、RSウイルステストパック陽性の喘息性気管支炎あり、流行が示唆される、加茂病院大須賀先生からはムンプス、喘息性気管支炎と気管支喘息の発作例が目立ち要入院例も多い、岡崎市民病院糸洲先生からは川崎病がチラホラ入院、喘息が多い、安城更生病院小川先生からは百日咳の入院が散発、喘息が多い、知立市近藤先生からはムンプス（髄膜炎1例）、カンピロバクタ腸炎1例、川崎病1例、感冒性嘔吐症パラパラ、刈谷市田和先生からは手足口病が少し目立ち感染性胃腸炎がたまにみられる、碧南市永井先生からはムンプスが幼稚園児主体に目立つ、豊橋市からは手足口病が多発中で手足口病髄膜炎の発病がこれまでになく多い（市内宮澤先生、長屋先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2000年9月8日号(75巻36号)

黄熱：リベリア。8月16日、リベリア厚生省が黄熱病集団発生を報告。象牙海岸・アビジャンのパスツール研究所でウイルス学的に確認。発生地区であるグランド・ケブ山地は内戦中のシェラ・レオネの隣接地区。WHOは緊急予防接種準備中。

先天性風疹症候群：世界の状況。2000年1月12-14日、ジュネーブで国際会議が開催された。この会議は1984年以来予防接種関係者、小児科医、公衆衛生関係者が定期的に参加、本号は最近の世界的な状況のまとめである。

先天性風疹症候群発生状況：各年の流行状況により差があるが途上国では1,000出生あたり0.6~4.1。この数字はワクチン接種普及以前の先進国における先天性風疹症候群発生頻度と一致している。世界的なワクチン接種状況：MR(麻疹・風疹)またはMMR(麻疹・ムンプス・風疹)ワクチンが2000年4月時点で111カ国(世界の52%)で実施され(世界地図あり)、接種状況はアフリカ地区2%、東南アジア地区20%、東地中海地区50%、西太平洋地区57%、欧州地区68%、南北アメリカで89%となっている。経済的な問題をかかえた途上国における普及に問題がある。先天性風疹対策作戦：結婚妊娠をひかえた青年女子をワクチン接種の対象とするか、自然流行の撲滅を目的として幼児期に一斉接種をするか、地域特性を考慮して計画が立てられている。

インフルエンザ：2000年9月。オーストラリア。A型。8月。ブラジル、チリ、香港、ニューカレドニア、南アフリカ、ウルグアイ。A(H3N2)。

9月1日-7日届出。コレラ：マダガスカル、ミクロネシア。

2000年9月15日号(75巻37号)

黄熱病。リベリア。9月6日時点で102例。内戦中の隣国のシェラ・レオネとの国境地帯に局限。

コレラ。ミクロネシア共和国。ポンペイ(旧称ポナペ)。8月21日時点で2,689例(死亡5例)。エルトル小川型。ポナペ島に局限。弱毒生ワクチン接種と環境整備。

インフルエンザ。オーストラリア。シドニーにおける流行状況からWHOはオリンピック参加者にインフルエンザワクチン接種を勧告した。

急性弛緩性麻痺・ポリオ。世界全体の届出状況。99-2000年。99年における急性弛緩性麻痺患者数は世界全体で7,092例、2000年8月末で1,093例と減少。届出例の78%がウイルス学的な検査実施、2000年1~8月末で野生株ポリオが確認されているのはアフリカ地区57例、南北アメリカ0例、東地中海地区116例、欧州地区0例、東南アジア地区104例、西太平洋地区0例となっている。目立つのはアフリカのアンゴラ、コンゴ共和国、エチオピア、ナイジェリア、ソマリア、スーダンやアジア地区のアフガニスタン、パキスタン、インド、バングラデシュ、ミャンマ等となっている。日本、中国、ベトナムを含む西太平洋地区ではこの10月末にポリオ根絶宣言の予定。

アフリカトリパノソーマ症、結核、デング熱。国連開発基金、世界銀行、WHOが共同でこれら熱帯病の研究助成を今回も予定。地方病的に常在している地区における調査研究が主体。女性研究者や若手研究者の応募が求められている。

インフルエンザ：00年9月。アルゼンチン、オーストラリア、インド。A型。

9月8日-14日届出。ペスト：米合衆国、モンゴル。